今回の広島市北部土砂災害における被災地へ、遠く北海道の建設企業からも支援活動が行われました。宮坂建設工業株式会社災害支援隊の活動について、ご紹介いたします。

広島市土砂災害避難者支援について

宮坂建設工業株式会社　代表取締役　宮坂 寿文

広島市で発生した土砂災害は、74人の方がお亡くなりになりました。お亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

８月25日（月）の朝礼にて、広島市の土砂災害で避難生活（避難場所11か所）が長引いている方々（1,092人）に、北海道十勝で収穫された新鮮なトウモロコシ・ジャガイモの茹でたてを食べていただき、少しでも元気になってもらうために、広島市に炊出し班を派遣することを社員に指示しました。

◆◆◆

当社では、社員はもちろんのこと、協力会社・地域住民の皆様の防災意識向上を図るために地域住民参加型防災訓練を毎年行っており、その中の一環として炊き出し訓練も実施しています。

すぐに広島市安佐南区の関係者の方と連絡を取り、炊き出し期間は８月29日（金）～８月31日（日）の３日間、場所は、同区にあります広島市立緑井小学校で炊き出しを行うことが可能となり、即時に当社社員による広島市土砂災害避難者支援チームを結成いたしました。

その後は、トウモロコシ4,015本（1,400kg）、ジャガイモ20,000個（3,100kg）、バター30ケース（13.5kg）を調達し、これらの食材と炊き出し用の釜３台を含む器材等を北海道から広島へ運送する手配を行いました。

※トウモロコシ「とかち晴れ」とジャガイモ「とうや」・「トヨシロ」は、芽室町農業協同組合様と十勝清水町農業協同組合様、バターは、よつば乳業株式会社様よりご提供いただきました。

◆◆◆

広島市土砂災害避難者支援チームは先遣隊と後発隊の２班体制とし、８月27日（水）に会社（帯広市）から出発。先遣隊の６名は札幌千歳空港から広島空港経由で同日の夕方に広島市に到着。後発隊の８名は、パトロール車２台とワゴン車１台で、会社を午後に出発し、小樽港から舞鶴港までフェリーを経由して、29日（金）に先遣隊と合流しました。

先遣隊は到着の翌日、試験炊き出しを行い、１台の釜でトウモロコシでは50本（５分程度）、

ジャガイモでは150個（40分程度）が調理できることを確認しました。また、安佐南区、広島市中央青果卸市場、株式会社カナモト広島営業所、その他関係者の方々と打合せを重ね、緑井小学校を拠点に、佐東公民館、梅林小学校、八木小学校の３か所に、昼・夜２回の配送を行うことが決定しました。

炊き出し当日は、早朝から緑井小学校で下ごしらえを行い、午前11時から３台の釜で炊き出しを開始。トウモロコシとバターは食品用ラッピングフィルム、ジャガイモはアルミホイルで包むことにより、茹でてから３時間が経過しても十分な温かさを保って、ご提供することができました。その日はトウモロコシ800本、ジャガイモ2,100個を４か所の避難所で食してもらいました。

しかし、トウモロコシやジャガイモの皮むき、各避難所への配送等で人手不足となり、急遽、地元の方々にお手伝いいただくこととなってしまいました。手助けをしていただいたことで、その後の作業を効率良く進めることができ、大変助けていただきました。３日間でトウモロコシ3,755本、ジャガイモ7,500個を食してもらい、避難者の方923人のうち85％の方にご提供することができました。

◆◆◆

この支援を通じて、ある日突然いつ我々自身が被災者になるか分からない恐怖、それを拭い去るためにも一時的な救済ではなく、根本的な国家や社会、日本の国としてどのように救済できるか、被災者の方々の早期復帰を社会全体で応援すること、まだまだ多くの問題点が山積していると感じました。

改めて、宮坂建設工業株式会社創始者の遺訓であります『世の為、人のために尽くせ』を思い知り、建設業というのは社会基盤を預かっている文字通りハードな部分を含め、今回のようなソフトの部分も共に持ち合わせることで、さらに地域の皆様と密着した深い関係性を築けることができました。

今回の炊き出しでは避難者の皆様に、「温かくて美味しかったよ」と笑顔で仰っていただいたことで、何か少しでもお役に立てたこと、また、広島市の関係者の方々に親切丁寧な御協力をいただいたことに、社員一同深く感謝しております。

被災地の１日も早い復興をお祈り申し上げます。

◇ 宮坂建設工業株式会社ホームページ
http://www.miyasaka-cc.co.jp